

「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」について

ご意見を募集します

「ものづくり都市・京都」、さらには「科学技術創造立国・日本」を支える人材を数多く輩出してきた京都市立洛陽工業高校及び京都市立伏見工業高校が生徒や保護者、産業界等のニーズに応え、より魅力ある学校として発展し続けることを目指し、平成23年6月に「京都市立工業高校将来構想委員会」（以下、「本委員会」という。）を設置し、多角的な観点から自由闊達で精力的な議論を積み重ねてきました。

このたび、さらに幅広い市民の皆様からご意見をいただき、本委員会の「答申」策定に向けた議論を深めていくため、これまでの議論を「中間まとめ」として集約しました。

「京都市立工業高校将来構想委員会」の「中間まとめ」の内容

概要は裏面に掲載しています。全文は、京都市教育委員会学校指導課のホームページをご覧ください。また、京都市教育委員会学校指導課（京都市役所本庁舎4階）でも配布しております。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000126496.html>



QRコードによるアクセスはこちらで！

ご意見の募集期間

平成24年10月22日（月）～平成24年11月12日（月）

※郵送の場合は、当日消印有効

多数のご意見をお待ちしています！！

ご意見の提出方法

提出先：京都市教育委員会学校指導課高校教育担当 宛

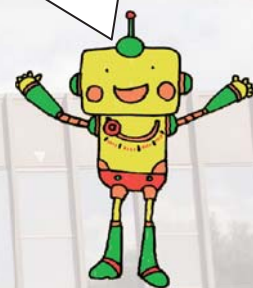
提出方法：別紙の様式（他の様式でも可）で下記のいずれかの方法により、ご提出ください。

① 郵送の場合

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

② ファックスの場合 075-222-3751

③ 電子メールの場合 gakkousidouka@edu.city.kyoto.jp



市立工業高校改革（洛陽工業高校・伏見工業高校共通）のマスコットキャラクター「ロボ太くん」

ご意見の取扱いについて

① お寄せいただきましたご意見につきましては、内容をホームページや報道機関等に公表する場合がありますので、あらかじめご了承ください。また、お寄せいただきましたご意見に対して個別の回答はいたしかねますので、併せてご了承ください。

② お寄せいただきましたご意見は、本委員会の「答申」策定の参考とさせていただきます。

問合せ先

京都市教育委員会指導部学校指導課高校教育担当

Tel：075-222-3811



「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」【概要】 (平成24年10月 策定)

はじめに

京都市立工業高校(洛陽工業及び伏見工業)におけるこれまでの改革を具体化し、より一層推進していくため、以下の2点の諮問内容について審議を行った内容を「中間まとめ」として集約した。

- これまでの市立工業高校の改革で示された方向性を具体化するための方策
- 上記の方策や生徒・保護者・産業界等のニーズを見据えた今後の学校規模と施設整備のあり方

第1章 市立工業高校に対する基本認識

- 市立工業高校は、「ものづくり」を通じた人間教育と「確かな技術」は、産業界からも厚い信頼を得ており、学校あっせんによる就職内定率は、この10年間を通じて100%を達成。
- 産業社会をめぐる状況が激変する中、「ものづくり」の概念も既存の「生産」や「製造」に加え、「工学」や「社会科学」等の領域を包含し、変質しつつある。この現状を踏まえて、市立工業高校においても今後のキャリア形成の中でより高度で専門的な知識・技術を習得し、加速度的に変化していく「ものづくり」に対応できる人材育成が喫緊の課題である。

市立工業高校の現状と課題を踏まえ、
下記内容を提言

第2章 次代の「ものづくり」の担い手を育むために

- 市立工業高校で将来を見据え育むべき資質や能力を育成するために、以下の3点を新たな視点として提言。
 - (1) 普通教科・科目の基礎学力の定着
 - (2) 「STEM教育」※¹の趣旨に基づく取組
 - (3) グローバル人材の育成に向けた取組
- ものづくりへの意欲・興味関心の高い生徒の確保していくために、以下の2点を提言。
 - (1) 大学や民間企業等との連携を図り、「ものづくり」に興味・関心のある小・中学生への働きかけを強化。
 - (2) 女子生徒の工業高校に対する興味・関心を向上する取組を一層強化。
- 昼間定時制は、京都府の「京都フレックス学園構想」※²の趣旨や教育理念と重複する部分が多いと見込まれるため、早期に京都府・京都市間で十分協議し、そのあり方を見直していく。

第3章 今後の「ものづくり」を見据えた市立工業高校のあり方

- 新たな価値の創造による技術革新等に向け、社会全体で「ものづくり」人材の育成を支えるイノベーションシステム※³を構築するために、市立工業高校が将来的に担うべき機能として、以下の2点を提言。
 - (1) 産学公の効果的な連携による『ものづくり教育の場』としての役割
 - (2) 「ものづくり」の『生涯学習の場』としての役割
- 市立工業高校を含めた市立高校全体で「ものづくり」を担う人材を育成する観点から、大学進学希望者のニーズに対応できる学校のあり方についても検討すべきである。

第4章 市立工業高校の施設・設備の整備と学校規模

- 施設・設備のあり方については、産業界における新たな技術革新に対応可能な施設・設備を整備し、魅力的な「ものづくり」教育を推進していくために、以下の5点の具体的方策を提言。
 - (1) 「ものづくり」教育に求められる多様な教育的機能
 - (2) 総合的な「ものづくり」に資する自由度の高い空間
 - (3) 研究開発が可能な「ラボ」※⁴や試作・製作が可能な「工房」
 - (4) 「ものづくり」を媒介とした地域とのつながり
 - (5) 公共建築物として求められるニーズへの呼応
- 市立工業高校においては、生徒数や工業高校への志願者の動向を踏まえ、学校規模が縮小されてきており、現段階で教育活動に大きな支障が生じている状況には陥っていないが、多様な学習活動や部活動の活性化を図る観点を踏まえると、1学年6学級(240名)から8学級(320名)の学校規模が妥当である。今後、中学生数の減少を考慮すると、市立工業高校2校を再編し、学校規模を確保することを検討すべきである。
- 施設・設備の整備手法については、将来の学校規模のあり方を勘案すると、施策の選択と集中の観点からも、敷地面積や立地条件、生徒の安心・安全、教育活動への影響等を考慮し、2校の優れた部分を集約・融合した再編を行い、効果的に活用することを検討すべきである。その場合は以下の2点の方策も併せて検討し、市民への説明責任を果たすことが重要である。
 - (1) 施設整備等の初期投資や改修等の維持管理等、コストについて可能な限り財政負担を低減させる整備手法を検討する。
 - (2) 設備の整備にあたっては、最新の機能を有するものへ「更新」する必要性を念頭に置き、企業や研究機関が有する設備を活用することも検討する。

※1 科学(Science)・技術(Technology)・工学(Engineering)・数学(Mathematics)の一体的な教育のこと。

※2 京都府が新設することを発表した、多様なニーズに対応できる柔軟な教育システムをもつ新しいタイプの高校のこと。

※3 既存の枠に止まらない新たな考え方や仕組みを取り入れ、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを目的とし、その過程に関係する機関の活動、これらの機関の相互間での資源の流れ及びそれに関わる外的要因の総体のこと。

※4 ラボラトリー(laboratory)の略。研究所・研究室・実験室のこと。

「京都市立工業高校将来構想委員会 中間まとめ」に対するご意見

(ご意見記入欄) 応募期間：平成24年10月22日(月)から平成24年11月12日(月)

【年 齢】 _____ 歳

【性 別】 男性・女性 (〇をつけてください)

【職業又は所属団体等】 _____

【お住まいの行政区】 _____ 区(京都市以外の場合) _____ 市・町・村)

※ご意見をまとめる際の参考にします。差し支えなければご記入ください。

【ご意見】

※ お寄せいただきましたご意見につきましては、内容を公表する場合がありますので、あらかじめご了承ください。また、お寄せいただきましたご意見に対して個別の回答はいたしかねますので、併せてご了承ください。

※ ご応募の際にご使用いただくご意見記入用紙につきましては、他の様式をご使用いただいても結構です。

提出先 京都市教育委員会学校指導課高校教育担当 宛

- ① 郵送の場合 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
- ② ファックスの場合 075-222-3751
- ③ 電子メールの場合 gakkousidouka@edu.city.kyoto.jp